

令和5年度 長崎県立五島南高等学校 学校評価表

学校教育目標	教育基本法、学校教育法、長崎県教育方針等に則り、全教職員・生徒が一体となって、明るく活気に満ちた学校づくりに邁進し、一人ひとりの優れた個性や能力の伸長を図りながら、誠実な心を持ち、ひたむきに努力し、積極的な行動をとり得る心身ともに健全で、調和のとれた豊かな人間の育成に努める。
基本理念	(1) 一人ひとりが主役の学校 (生徒一人ひとりが主役となり、自己肯定感を高めることができる学校) (2) 進路実現に向けて努力する学校 (授業改善に努め、進路実現に向けて、生徒も教職員も懸命に努力する学校) (3) 保護者・地域の信頼と期待に応える学校 (保護者・地域から信頼され、社会に貢献できる人材育成に努める学校)
前年度の成果と課題	(1) 16年連続で3年生全員の進路先を決定することができた。進路ガイダンスセミナーや事業所説明会の実施など、工夫をした指導で進路選択に対する動機付けを強め、進学指導、就職指導のどちらも少人数できめ細やかに対応できた。また支援が必要な生徒の校外での就業体験を実施し、就職につなげることができた。 (2) 例年、他者への思いやりや、良好な人間関係の構築に重点を置いて指導しているが、まだ十分に達成できていない。 (3) 県教育センターなど外部機関と積極的に連携することで、生徒に寄り添った多面的な教育を実施できており、次年度も継続したい。 (4) スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、特別支援教育支援補助員の配置により、個々の生徒に手厚い教育を提供することができた。継続したい。
努力目標	(1) 他者への思いやり、帰属（集団の一員）意識の醸成を図り、良好な人間関係を築き、他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育む。 (2) 自己管理と基本的な生活習慣の確立をめざし、学校生活の充実を図る。 (3) 授業におけるICT機器の積極的な活用を推進し、基礎学力の定着と向上をめざす。 (4) 生徒一人ひとりに対する進路指導の充実を図り、進路実現100%をめざす。 (5) 組織的な教育相談体制の充実と特別支援教育の推進を図り、生徒一人ひとりの生きる力を育む。 (6) 学校行事、生徒会活動、部活動等の充実と活性化を図り、生徒の自主性や主体性を育む。 (7) 互いの人権感覚を育み、生徒及び教職員の健康と安全管理の徹底を図る。

※評価の値は、4段階評価の平均値

【評価分野】1 学校経営						
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価		成果と課題
				R04	R05	
学校教育目標	教育目標の明確化	学校の実態に即した経営方針を学校内外に明確に示し、教職員間の相互理解に基づく教育活動を行う。	各分掌・学年、地域との連携を密にし、校務運営の円滑化並びに学校行事の充実を推進する。	3.7	3.8	部会や学年会が充実し、校務運営は円滑であった。学校行事をほぼコロナ禍前の状況に戻すことができ、目標を達成することができた。  生徒指導上の問題行動が複数発生したが、保護者、地域と連携し生徒の指導につなげることができた。今後未然防止につなげたい。
			保護者・地域との緊密な連携を図り、問題行動を未然に防ぐ。	3.4	3.7	

【評価分野】 2 教育活動

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価		成果と課題
				R04	R05	
教育課程の編成	創意工夫を生かした教育課程の実施	学習指導要領の主旨を生かした特色のある教育課程を編成する。	新学習指導要領の施行にあたり、生徒の実態に即した教務内規・教育課程・評価方法の研究を促進し、ICTの活用をはじめとした教員の授業力向上や環境整備を図る。	3.6	3.8	新教育課程2年目となり評価をより効果的に実施することができた。今後生徒の実態に合わせた改善が課題である。
教科指導	わかる授業の展開とその実践	指導方法の創意工夫に取り組む。	進路検討会・学力検討会を実施し、検討内容を授業に反映させる。	4.0	3.8	少人数、習熟度別授業の成果は出ているもののまだ授業内容の理解が難しい生徒もいる。
		生徒の実態に応じて教材の精選や工夫、教具の活用を行う。	朝ドリル・マナトレの実施、補習・対外試験の企画、全職員による面接指導。	3.8	3.8	積極的に取り組む生徒が以前より増えている。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	生徒理解に基づき、全職員できめ細やかな生徒指導を行う。	学級担任・教科担当者との連携を密にしながら、各学年・分掌の協力を得て情報を共有し、生徒の精神的自立への援助を行う。	3.9	4.0	情報の共有により適切な指導ができています。今後も継続して情報共有を行っていく。
			不登校生徒及び不登校傾向のある生徒への適切な対応に努め、不登校生徒ゼロを目指す。	3.2	3.3	早期対応に努め、適切に対応することができたが、様々な事情により登校できない生徒もいた。
	人権教育に関する意識を高め、学校全体で積極的に取り組む。		3.8	3.7	人権意識が低い生徒が増えつつある。継続的・日常的な指導が必要である。	
	「いじめ」の未然防止早期発見に積極的に努める。		4.0	3.9	いじめ対策委員会などで情報共有を徹底し、生徒の人権意識を涵養していく必要がある。	
進路指導	進路指導の充実	系統的計画的な進路指導を行う。	企業・上級学校の積極的な開拓及び情報収集と生徒・保護者へ情報提供する。	3.8	3.5	進路検討会などで生徒一人一人のきめ細やかな検討を面談にフィードバックすることができた。また進路ガイダンス等も効果的に実施できた。
			校内外での進路ガイダンスセミナーを企画・運営する。	3.8	3.8	
			ふるさと教育の一環としてインターンシップや島内事業所説明会などを通して、若者の地元定着を促進する。	3.5	3.5	今年度も一定数が島内に就職した。今後も地元を担う人材の育成を推進していきたい。

【評価分野】 3 組織運営						
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価		成果と課題
				R04	R05	
校内研修	研修体制の確立と実践	各種委員会活動の効率化と活性化を図る。	研修や月間報告を通して、生徒理解を深めるように努めた。	3.9	3.6	研修や委員会等の資料をもとに生徒情報等を共有することができた。効果的な指導につなげたい。
現職教育	教職員の資質向上への取り組み	教育センター等の研修に積極的に参加する。	校内外の研修に積極的に参加した。	3.1	3.1	校内研修は継続的に実施できており、質・量ともに充実している。何か問題が発生した際には、職員朝会などで短時間の研修を実施した。

【評価分野】 4 教育環境						
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価		成果と課題
				R04	R05	
学校環境の整備	潤いのある生活環境の整備	日々の清掃を徹底し美化意識を高める。	生徒とともに清掃活動を行った。	3.9	3.7	地域清掃を全校生徒及び職員で実施した。また離島留学生による海岸漂着物の調査・研究を実施している。
施設設備の管理		施設・設備の有効な活用が図られ、安全点検の管理を適切に行う。	安全点検を定期的に行い、気になることについては情報の共有を図った。	3.6	3.3	毎日の掃除や大掃除等において徹底するように指導している。また大掃除の際に職員による安全点検を実施している。

【評価分野】 5 開かれた学校づくり						
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価		成果と課題
				R04	R05	
開かれた学校づくり	情報提供の充実	教育活動の情報を保護者、地域住民へ積極的に提供する。	学校行事への積極的な参加意識と協調性を高めるよう努力した。	3.6	3.6	これまでの学校日より、ホームページの改善などに加え、今年度は新たに公式のInstagramを開設した。Instagramの内容は生徒が担当することで、生徒の自主性を育む活動へとつなげていきたい。

【総 評】

<p>評価の結果 (成果と課題)</p>	<p>① 学校経営全般について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>教職員が一丸となって様々な課題に対応し、校務や学校行事を円滑に運営することができた。</u>生徒指導については未然防止を目指した生徒対応が<u>今後も課題</u>である。</li> </ul> <p>② 教育活動全般について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習や学校生活、行事、部活動等、丁寧に生徒と寄り添った指導をすることができ、保護者・生徒にも一定の評価を受けた。</li> <li>・<u>進路ガイダンスセミナーや企業説明会、またPTAの協力などによって、進路選択に対する機運が高まり、3年生全員の進路先がすべて決定した。</u>また、<u>今年度も支援を必要とする生徒の自立活動や校外の就業体験を行い、進路決定につなげることができた。</u></li> <li>・今年度も、保護者、生徒ともに家庭学習の取り組みについて不十分という回答であった。<u>今後学習の必要性について生徒とともに考える機会を持ちたい。</u></li> <li>・<u>保護者や中学校から、本校のきめ細やかで丁寧な指導に一定の評価をいただいている。</u>今後も中学校や関係機関、保護者と連携を取りながら、適切な支援を実施する必要がある。</li> <li>・<u>離島留学生の支援や指導については、今年度は生徒とホストファミリーとの関係に課題が見られた。</u>今後、学校、保護者、ホストファミリーの相互理解と連携強化を図っていく必要がある。</li> <li>・全職員の共通理解のもと、年間を通して通級指導を行うことができ、受講者には一定の成果を上げている。今後も継続して組織的な指導を心がけていきたい。</li> <li>・保健室に話に行く生徒も多くおり、生徒の大切な居場所となっている。</li> <li>・今年度も、SC、SSW、特別支援教育支援補助員、離島留学専任職員の配置があり、医療・福祉など外部機関とも連携した支援や指導を行うことができた。</li> </ul>
<p>来年度の改善策</p>	<p>①新学習指導要領の目標に合わせた、生徒が成長を実感できる授業を、より充実させる必要がある。<u>生徒の実態に合わせてICTの活用方法や遠隔授業の有効活用などを模索していきたい。</u>また、学年・教科で連携した課題を精選し、家庭学習の定着を図る。</p> <p>②高卒採用者の課題として、基礎学力の不足がある。習熟度別授業の取り組みやマナトレ、朝ドリルの効果を検証し、家庭学習時間を増やして基礎学力の定着を図る必要がある。</p> <p>③4年制大学を希望する生徒が増えている。個別・添削指導をより充実していくとともに、<u>今年度実施した自学自習の検証などを行い、より有効な指導を検討していきたい。</u></p> <p>④不登校生徒または不登校傾向生徒に対する組織的な指導・支援体制をより一層充実していく必要がある。<u>離島留学生に関しては、研修や情報交換の場を設ける等、ホストファミリーへの支援をさらに充実させていきたい。</u></p>

1 評価の実施期日・場所

- (1) 期日 令和6年2月16日(金)
- (2) 場所 長崎県立五島南高等学校 校長室

2 学校関係者評価委員

氏名	学校評議員との兼務の有無	出欠
出口 留美	有	出席
大窄 誠一	有	出席
小柳 千敏	有	出席

3 学校関係者評価の内容

(1) 教育活動について

- いじめ等の背景にある「価値観の多様化」にしっかり目を向けていく必要がある。価値観が違う者同士は、まずはお互いに理解しようとする気持ちを持たないと分かり合えない。教員の力量も問われている。
- 以前、校長室を開放して、昼食を一緒に取っている校長先生がおり、評判がよかった。生徒理解の有効な方法ではないか。
- 文化祭について、以前はあった食物バザーについては、文化祭の目的を明確にした上で「文化」に重点を置くのであれば、バザーをせずにしっかり皆が見学をできるようにした方がよい。

(2) 自己評価の結果を踏まえた今後の改善策について

- 今後も一人ひとりを大切にしたい指導を継続していただきたい。

(3) 学校の重点目標や自己評価の評価項目について

- 生徒のアンケートを見ると学校への信頼が見て取れる。これまで南高で勤務した方々が取り組んできた努力の賜物である。南高は素晴らしい学校になっていると感じる。できればそのことを、在校中に生徒が実感できるような取り組みをしてほしい。
- 「学校を休むハードルが低い」とあるが、元小学校に勤務したものとして責任を感じる。「子どもが休むと言っているから」休ませるとい保護者が増えている。親としての判断を放棄している。再度小学校にも働きかけていきたい。

(4) 学校運営の改善に向けて

- 職員の不祥事に関しては、個人の問題もあるかもしれないが、背景に多忙さや人間関係のストレスがないか検証して欲しい。